



23

## 2010年 日出生台・海兵隊訓練

真宗大谷派 見成寺住職 日野詢城

1995年沖縄で起きた少女暴行事件を機に、沖縄では米軍基地の縮小・整理を求める運動が拡大。この年は戦後50年の節目の年でもあり、沖縄戦23万人余りの犠牲者の名前を刻んだ「平和の礎」が建てられ、戦後始めて三権の長が揃って追悼式典に参加した年でもありました。住民台帳などの資料が戦火で失われてしまった中で犠牲者の確認は困難を極め、2年余りの時間をかけ、県民一人一人の記憶をたどり情報を集め名簿が整理されたといえます。沖縄

の人々の思いの深さを知らされたいのは、日本人とされつつも名前も人数さえも記憶されなかつた朝鮮半島出身者の石碑群である。相当数の名前が記録されたあと石碑の半ばから空白になった石碑が何基もある。まったく手がかりのない人がこれほどいたはずだという謝罪・いたみ象徴だと思う。

返還された後にも居座り続けるアメリカの軍。米兵が起こす事故や事件に対する捜査権もない沖縄。十万人規模の基地縮小・整備を求める運動の中、97

### 日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

戦争から平和が生み出されることはありません。戦争が生み出すのは戦争です  
アレン・ネルソン

年、国は「沖縄の痛みを軽減するため」ということで、キャンブ・ハンセンで行われていた県道104号線越えの実弾射撃を、国内5カ所に分散移転して実施することを決めました。5カ所の一つに挙げられた時、湯布院町として移転訓練に反対の態度決定をしました。「日出生台・町民連絡会」というものが作られ、町を挙げた運動として98年の演習に反対し、沖縄との連帯を求め、基地の縮小・整備をもとめ、関係自治体の連絡協議会なども設置しました。しかしその運動はその後の首長選で大きく後退し、地元運動は衰退。99年以降「ローカルネット大分・日出生台」を中心に、さまざまな地元の運動も続けられてきました。

日出生台での米軍の演習は98年が初めてではなく、1987年大規模な日米合同訓練が行われ、国は「沖縄の痛みを軽減するため」ということで、キャンブ・ハンセンで行われていた県道104号線越えの実弾射撃を、国内5カ所に分散移転して実施することを決めました。5カ所の一つに挙げられた時、湯布院町として移転訓練に反対の態度決定をしました。「日出生台・町民連絡会」というものが作られ、町を挙げた運動として98年の演習に反対し、沖縄との連帯を求め、基地の縮小・整備をもとめ、関係自治体の連絡協議会なども設置しました。しかしその運動はその後の首長選で大きく後退し、地元運動は衰退。99年以降「ローカルネット大分・日出生台」を中心に、さまざまな地元の運動も続けられてきました。

日出生台での米軍の演習は98年が初めてではなく、1987年大規模な日米合同訓練が行われ、国は「沖縄の痛みを軽減するため」ということで、キャンブ・ハンセンで行われていた県道104号線越えの実弾射撃を、国内5カ所に分散移転して実施することを決めました。5カ所の一つに挙げられた時、湯布院町として移転訓練に反対の態度決定をしました。「日出生台・町民連絡会」というものが作られ、町を挙げた運動として98年の演習に反対し、沖縄との連帯を求め、基地の縮小・整備をもとめ、関係自治体の連絡協議会なども設置しました。しかしその運動はその後の首長選で大きく後退し、地元運動は衰退。99年以降「ローカルネット大分・日出生台」を中心に、さまざまな地元の運動も続けられてきました。

今回は、連合大分などが主催する「1.24・日出生台集会（5,600人）」をはじめ、県平和センターや市民団体などが主催するゲート前の集会など、本格的には演習期間中、何らかの抗議行動がとられ続けたいと思います。地方紙である『大分合同新聞』にはニュースとしての扱いの他、特集が幾つも生まれ、連日の報道でしたので、多くの方はすでにご存じであろうかと思いつつも、「宗教者9条の会・大分」として23号を「日出生台特集号」と致しました。

# 日出生台演習場



■日出生台は、九州横断自動車道大分長崎線沿いに広がる日本でも有数の自然に恵まれた高原地帯。この中央部を東西16km、南北5km、総面積は約4,900haの西日本最大の演習場。

■かつて日出生台は、江戸時代から交通の要衝だった。現在の演習場の真ん中あたりを日田から別府、大分への道路が走り、今宿、車谷、中須などの宿場を参勤交代の大名たちが利用した。

旧日本軍に接収された明治32年当時、演習場内に約100戸の農家と150haの田畑があったが、すべて演習場の外に立ち退かされ、以降演習場が拡大する度に、2度、3度と立ち退き、移転を繰り返し、やむなく生まれ故郷を去った人も多い。

■その後日出生台では、敗戦による旧日本軍の解体とともに、400戸もの開拓農民が入植を始めるなど、人々は「演習場はなくなるのでは」と喜んだ。しかし、昭和21年、米軍が日出生台を接収、開拓農民は追い出された。

米軍駐留時代は「悪夢の時代」だったという。「演

習または発砲による、土地、家屋、穀物並びに家畜に損害が発生した場合に、占領軍はその責任を負わないことを明瞭に承知すべし」との米軍通達が、当時の状況を一言で示している。

■現在、日出生台演習場では、1年間に330日(うち実弾演習は230日)とほぼ年中無休で演習が行われている。周辺地区の道路は玖珠駐屯地や湯布院駐屯地から日出生台演習場まで戦車や自走式りゅう弾砲、装甲車などが直接キャタピラで、民家の隣を走り抜けている。演習の砲音は、天候によっては別府市、大分市まで響くこともある。



2月7日ゲート前抗議集会

## 米海兵隊の実弾砲撃演習に抗議

2月7日、「草の根会」代表の梶原得三郎さんたちの呼びかけで、100名余りの抗議集会在日出生台ゲート前で開かれました。正午に見成寺に集合、現況報告の後、準備していた新聞の切り抜きなどを見るなどして交流、1時にゲート前に集合。それぞれの思いを胸に、広島・長崎・福岡そして東京から馳せ参じた人もいた。集会では横断幕やゼッケンで抗議の意図を、10名ほどがメッセージを語った。この春、大学院修士課程の卒論テーマを「松下竜一さん」にしたという女子大生も。この日は日曜日に当たり、地元自治体が自粛を求めているのであるが、155ミリりゅう弾砲41発が撃たれた。明らかに4年前の訓練とは異なる演習、普天間飛行場移転問題で、佐賀空港、大村航空基地などが移転候補として取りざたされる中、演習地は日出生台という憶測も出ている。

以下は、当日「米海兵隊の実弾砲撃演習に抗議するゲート前集会・参加者一同」として、内閣総理大臣、鳩山由紀夫さんに宛てられた集会宣言です。(一部変更文責・詢)

内閣総理大臣

鳩山由紀夫殿

我々は今、大分県日出生台演習場ゲート前に集まっています。4年ぶりに行われている米海兵隊の実弾砲撃演習に反対する市民です。

我々はとても無念な思いを抱えてこの場に立っています。昨年の衆院選で民主党に投票した多くの国民がその一票に託したのは、政治そのものの改革だったはずで、自民党が長年にわたって進めてきた「日米軍事同盟関係」についても、きつと見直しが行われるであろうと、みんな期待しました。戦後65年も経とうというのに、未だ米軍の占領下にあるかのような現状を、今度こそ変えることが出来るだろう、

いや、変えなくてはいけないと思つて新しい政権を選択したのです。鳩山代表の掲げる「友愛」の精神と、米軍最優先のわが国の現状はまったく相容れないものです。新政権が発足して半年、我々の期待は裏切られたままです。政権は替わつても対米姿勢に何の変更もなく、日出生台の大地にはまた海兵隊の砲弾が撃ち込まれていま

す。しかも、今回から機関銃などの小火器訓練も実施されるなど、我々の願いとは逆に演習の拡大・強化が、一方的に米軍の都合で進められています。

※ 演習場から戦地へ政府は国民に向けては「在日米軍は日本を守るため」と言い続けてきましたが、米海兵隊が沖繩などの基地から、ベトナムに、イラクに、アフガニスタンに出撃し、多くの人びとを殺戮し、今もなお戦闘行為を日常としていることを多くの国民は知っています。日本を守るためではなく、世界各地で戦争をするために日本の基地が使われ、訓練が繰り返され、我々の税金が使われていることをすべての国民に知らせるべきであります。今日、日出生台で大砲を撃つた兵士が、明日、アフガニスタンの小さな村に砲撃を加えるかもしれないと思うと、胸が痛みます。イラクの子どもに銃を向けるその手に我々も手を添えているのだと思うと、その米兵の手を払いのける手を持ち得ない自分が悔しく、つらいのです。我々はどんな戦争にも手を貸したくありません。

※ 世界に「友愛」を鳩山総理がいう「友愛」

は米軍に向けられるものではなく、世界のすべての民衆にこそ向けられるべきものです。左手に武器を持ったまま握手の右手を出すのではなく、武器を棄て、両手でしっかりと相手の両手を握るところから、本当の平和が生まれるのです。武力では平和は守れないという歴史を示す真実を、今こそ鳩山政権がアメリカに、そして世界にむかつて指し示すべきです。それこそが「友愛」の政治だと思います。

※ その日まで声を挙げ続けます我々は米海兵隊の軍事演習に強く抗議し、即時停止を求めます。我々は普天間の米海兵隊基地の撤去を求めます。我々はすべての米軍基地の撤去を求めます。我々は日出生台が、農民たちの平和な営みを穏やかに包み込む緑の平原になる、その日まで「実弾砲撃演習反対」の声を挙げ続け、決して退かないことを、ゲート前参加者の総意として、ここに宣言いたします。

2010年2月7日

参加者一同



# 砲撃最多の603発

実弾射撃は、2月2日から11日まで連続10日間、これまでの最多数となった。今回はこれまでになかった小火器（機関銃など）の訓練が追加されたうえに、155ミリりゅう弾砲の発射は603発と最大規模。小火器の訓練については県や由布市、玖珠町、九重町でつくる「日出生台演習問題協議会」と米軍との間で予め協定が明文化された形で約束されていたが、「照明弾」35発、「発煙弾」39発は予定されていたとは言えない。午後6時以降の訓練も6日、着弾地付近での火災も2度。報道機関は「拡大と変質」「拡大は明らか」と報道しているが、2月16日の報道では「知事拡大にあらず」とある。1999年初回の448発。前回、2006年の570発に比べても明らかな拡大である。「砲撃数が1、2発増えたから大変」と言うことではない」という知事のコメントの背後に何があるのか不安だ。

紛れもなく地元住民は年間230日を越える射撃の音や振動には慣らされてきた。その様子が一変したのは1987年の「日米共同訓練」からだ。米軍の指揮下で訓練をし、「沖繩の負担軽減のため」という大儀で米軍の訓練が繰り返されることで、紛れもなく9条が危機にさらされていることを憂うのであります。情報が開示されないことに不安を感じるのであります。アメリカのオバマ大統領にしても日本の鳩山内閣にしても、これまでの流れを一気に変更することは困難であることは承知の上であります。戦争から平和が生み出されることはない」ということは世界中の人々が経験した歴史の教訓です。実現は極めて困難な「核の廃絶」を世界に表明したアメリカと日本、「軍事訓練の縮小と整備」は必然の課題だと思っただが…。来年も実施すると発表されている日出生台での海兵隊訓練、「黙ってしまえば認めたことになる」のだと…（日野詢城）

**宗教者9条の会・大分事務局**  
 〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺  
 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203  
 年会費 3,000円 郵便振替口座 01720-1-111731

## 連続談義

アレンネルソンさんのCDが手に入りました。江林さんのオーディオでブルースを聴きながら、久しぶりのフリートークを。

第十八回 3月11日（木）3時より  
 会場 願西寺 大分市今津留2-10-29  
 電話 097-558-8430

### 世話人（◎代表者）

- |       |         |          |
|-------|---------|----------|
| 無着成恭  | 曹洞宗     | 泉福寺      |
| 酒迎天信  | 日本山     | 妙法寺      |
| ◎日野詢城 | 大谷派     | 見成寺      |
| 林正道   | 大谷派     | 安養寺      |
| 西郡均   | 本願寺派    | 誓岸寺      |
| 古谷聡   | 大谷派     | 蓮照寺      |
| 佐々木淳二 | 大分メノナイト | キリスト教会   |
| 掛橋泰定  | 日蓮宗     | 妙栄寺      |
| 大在紀   | 本願寺派    | 長光寺      |
| 野口春夫  | 日本基督教団  | 津久見教会    |
| 永井一匡  | アライアンス  | 大分キリスト教会 |

### 編集後記

五輪バンクーバー大会が2月13日開会された。開会式のセレモニーの主役はネイティブなカナダ人であったと思う。82カ国・地域の参加者はこれまでの最大だという。一人だけの参加国も多く、一度もメダルを取ったことのない国も数多くある。勝ち組も負け組もない開会式。地域の中には敵対する国家の統一チームもある。オリンピックという「魔法」を感じる。民族や宗教のちがいを超え、国境に支配されない魔法の場、がそこにあると。先鋭化された技術と極限の技でメダルを争う。それは4年に一度の祭典にふさわしい「夢」の世界だ。でもオリンピックにはもう一つの顔があることを思い起こさせてくれた。オリンピック憲章には「オリンピズムは、肉体と意志と知性の資質を高揚させ、全人のなかにこれを結合させることを目指す人生哲学であり」「その目標は、人間の尊厳を保つことに重きを置く」とあります。競技は「個人やチームの間で競われるものであり、国と国の間で競われるものではない」と明記されている。ふとベトナム戦争のことを思い起こした。何度目かのクリスマス休戦が戦争終結に結びついたのだ。ひとはどこかで一つになる場と機会を求め続けているのだと…。（詢）